

JFEシステムズ株式会社

2012年度 決算説明会

2013年4月25日

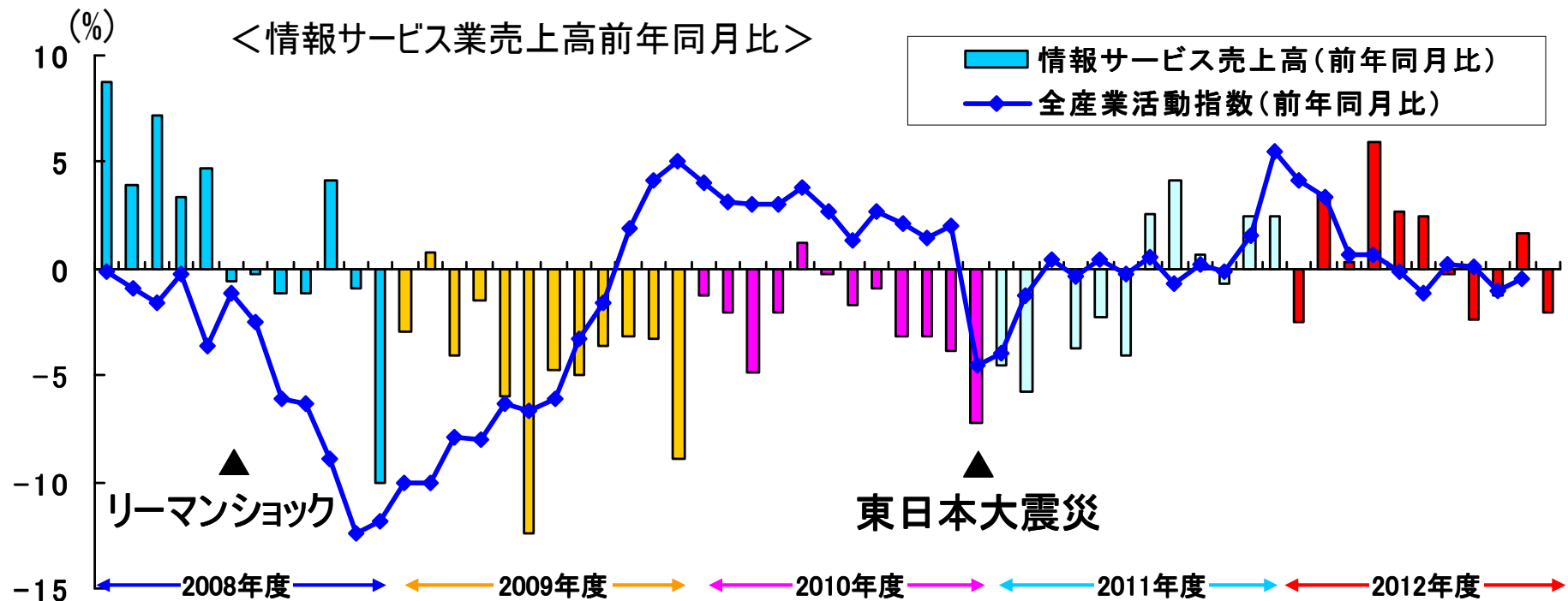
目次



I . 2012年度決算概況	P 3
II . 2013年度業績見通し	P 9
III . 競争力強化への取り組み	P14

I . 2012年度決算概況

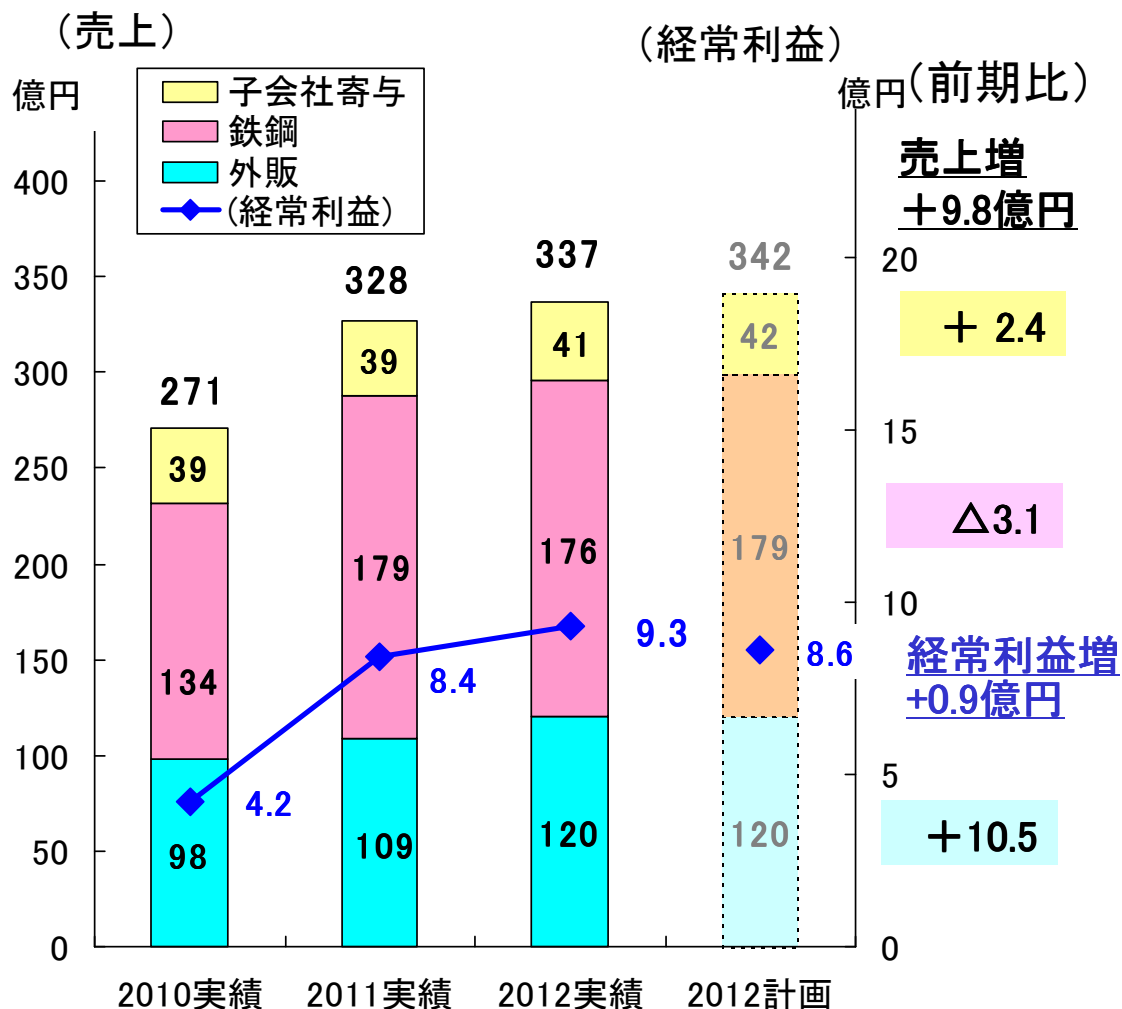
- リーマンショック以降抑制されてきたIT投資は、2012年度に回復の兆しが見えはじめ4年ぶりにプラスに転じたが、秋以降本格的な需要拡大までには至らなかった。
- 2013年度は、デフレ脱却を狙いとした経済政策による景気回復が期待されるものの、情報サービス業界への波及効果は不透明なままである。
- JFEスチールおよびグループ会社は収益向上に向けた取組みを継続中であり、引き続きIT投資抑制が継続する見込みである。



2012年度業績の概要



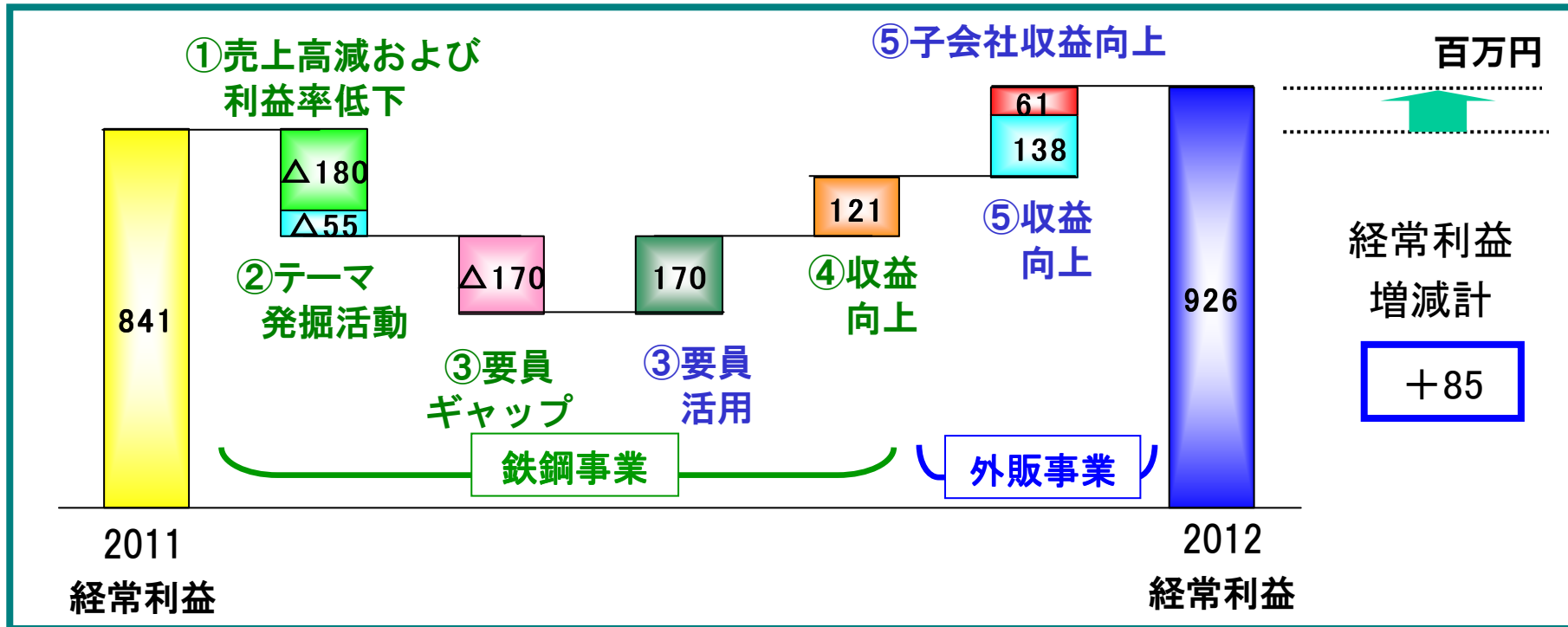
- **連結業績は対前期で、増収増益となった。**
- **鉄鋼向けの売上高は減少したが、製造流通顧客向けSIの売上大幅増でリカバー。**
- **鉄鋼向けの要員を外販へシフトし、外販向け上流人材の育成に活用。**



<前期比売上増減>

連結子会社寄与	(億円)
・インフラサービス等増	+2.4
鉄鋼向け事業	(億円)
・スチール向け	△2.9
・グループ会社	△0.2
合計	△3.1
外販事業	(億円)
・製造流通向け	+13.4
・食品品質	+1.5
・原価管理	+1.2
・電子帳票	±0.0
・金融向け	△2.9
・その他	△2.7
合計	+10.5

(連結:前期比) 2012年度 経常利益増減の要因



主な経常利益増減要因	金額
①鉄鋼事業売上高減少、利益率低下(案件構成の変化)による収益悪化	△180
②鉄鋼向け新規テーマ発掘活動費(鉄鋼システム共通化検討etc.)	△55
③鉄鋼での要員需給ギャップ発生に対して、外販への異動・活用を実施	±0
④鉄鋼事業の収益向上	+121
⑤外販事業および子会社の収益向上	+199

2012年度業績(連結:計画比)



単位:百万円	計画	実績	増減	
			金額	率
① 売上高	34,200	33,736	△464	△1.4%
営業利益	860	923	63	7.3%
② 経常利益	860	926	66	7.7%
(経常利益率)	2.5%	2.7%	(＋0.2ポイント)	
当期純利益	460	503	43	9.4%

- ①(売上高) 2012年度上期業績好調により計画を上方修正したが、
下期減速で、見直し計画に対しては未達。
自動車向けを中心とした外販製造流通SIは計画に対して大幅に改善。
- ②(経常利益) 外販は製造流通向けSI事業のプラスが寄与し、計画をクリア。
鉄鋼向けは減益計画に対してほぼ計画通り。

2012年度業績(連結:前期比) 「増収増益を達成」 JFE

単位:百万円	2011年度 実績	2012年度 実績	増減	
			金額	率
売上高	32,754	33,736	982	3.0%
売上総利益	5,745	5,752	7	0.1%
(売上総利益率)	17.5%	17.1%	(△0.4ポイント)	
営業利益	878	923	44	5.0%
経常利益	841	926	85	10.1%
(経常利益率)	2.6%	2.7%	(＋0.1ポイント)	
(*) 当期純利益	352	503	151	42.9%
EPS(円/株)	4,483	6,408	1,925	42.9%

(*) 当期純利益 : 前期の税率変更に伴う繰延税金資産の取り崩しの影響がなくなり、
今期大幅に増加。

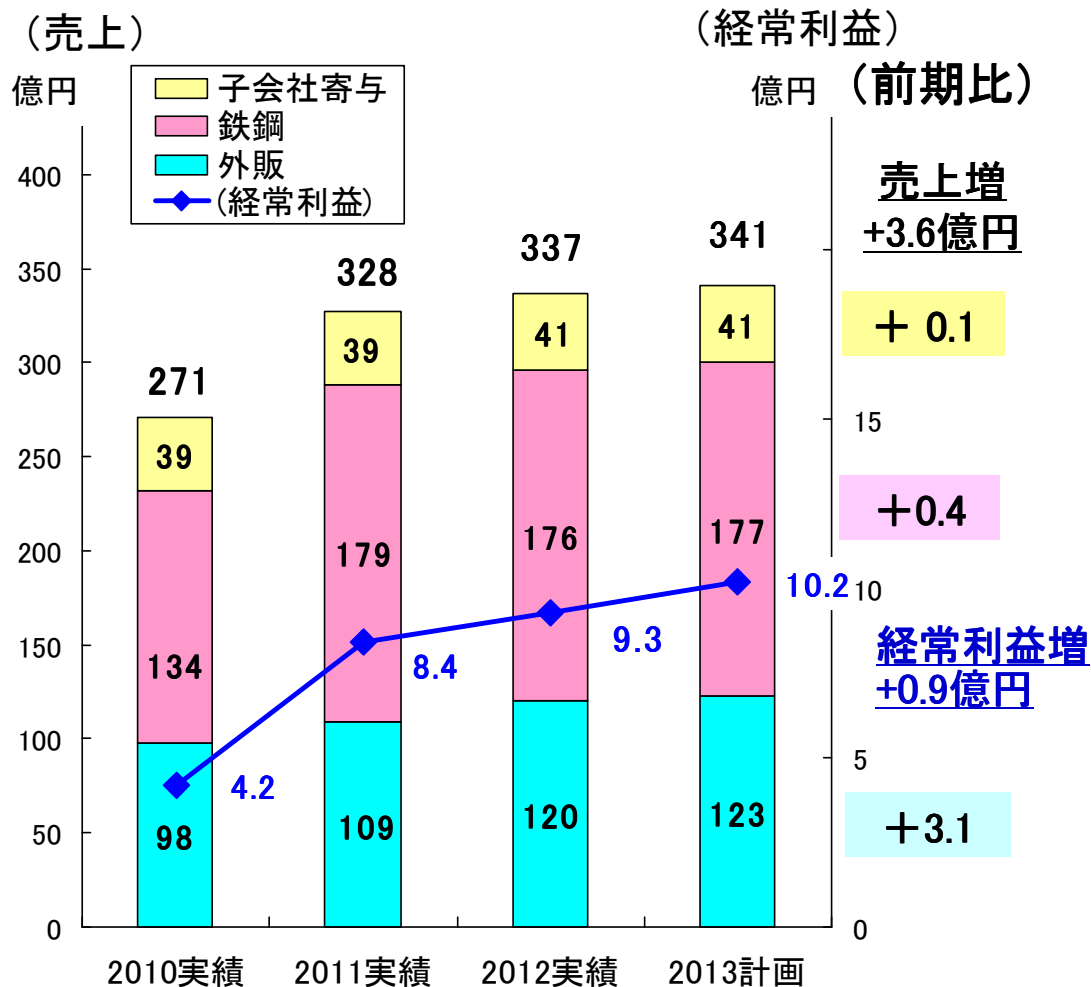
Ⅱ. 2013年度業績見通し

2013年度見通し概要



- 外販事業の売上拡大と収益向上を図り、前期を上回る利益水準確保を目指す。
- 鉄鋼向けIT投資動向は横ばいと想定。

外販拡大による増収増益を計画



<前期比売上増減>

連結子会社寄与 (億円)
 ・ほぼ前期並み +0.1

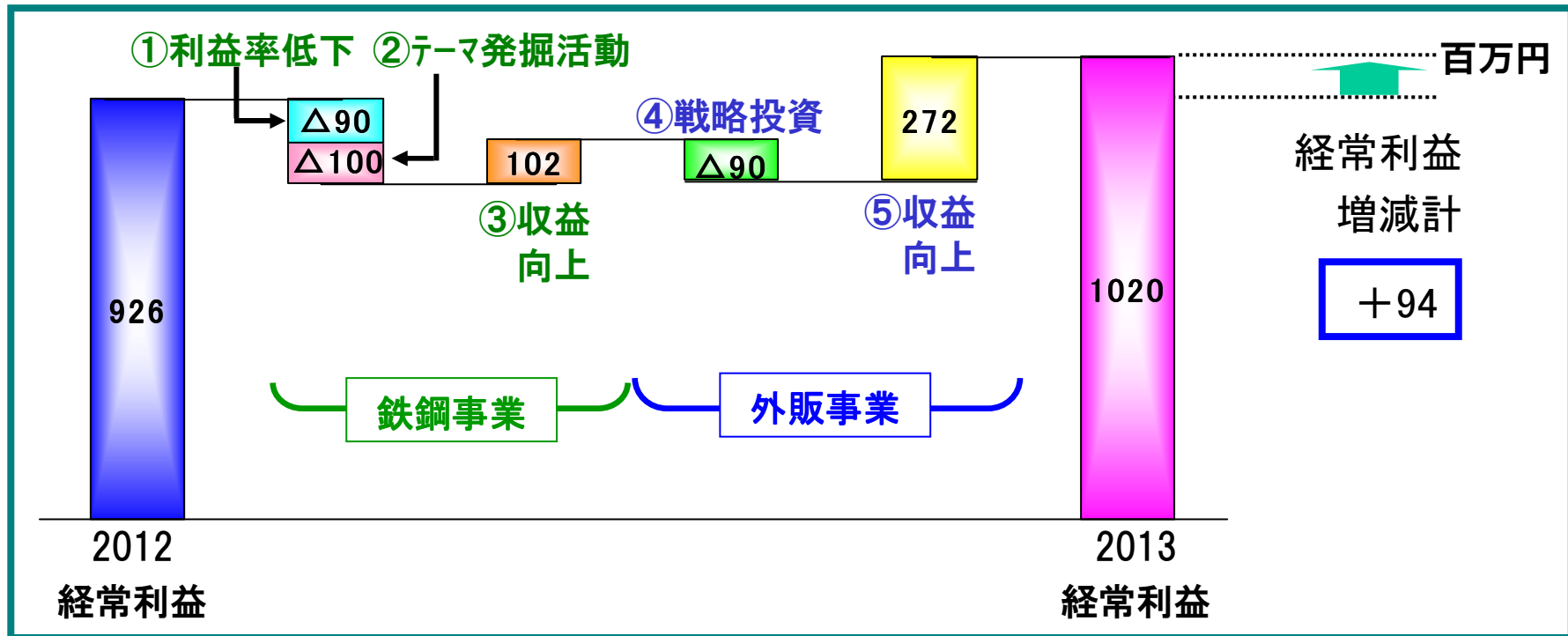
鉄鋼事業 (億円)
 ・ほぼ前期並み +0.4

外販事業 (億円)

- ・製造流通向け +2.6
- ・電子帳票 +1.1
- ・食品 +1.0
- ・金融向け △0.3
- ・その他 △1.3

合計 +3.1

2013年度見通し 経常利益増減の要因 (連結: 前期比)



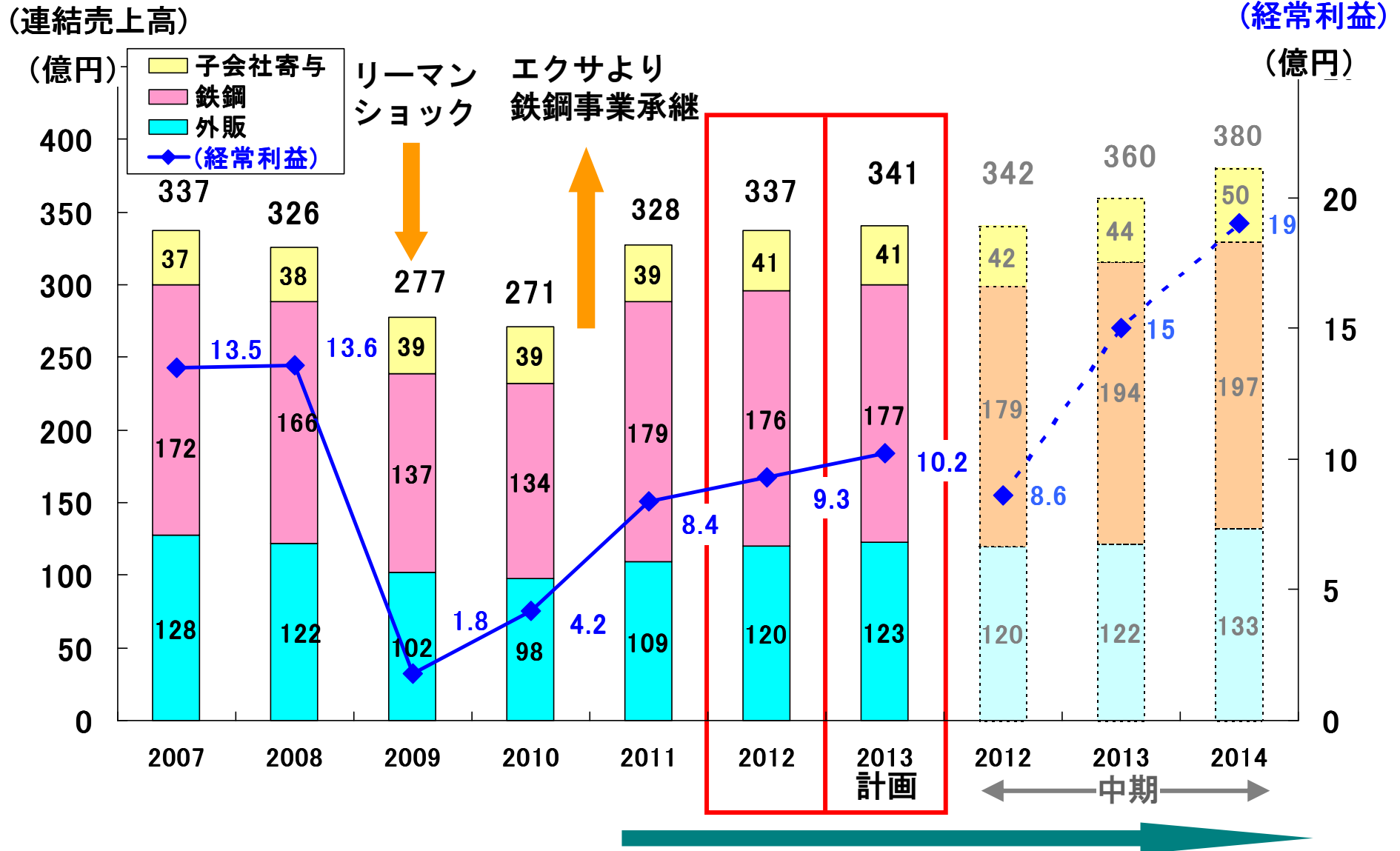
主な経常利益増減要因	金額
①鉄鋼案件の構成変化等で利益率低下	△90
②鉄鋼向け新規テーマ発掘活動費(鉄鋼システム共通化検討etc.)	△100
③鉄鋼事業収益向上	+102
④全社戦略推進のための投資増(基盤ビジネス拡大のための投資等)	△90
⑤外販事業収益向上	+272

2013年度見通し(連結:前期比)



単位:百万円	2012年度 実績	2013年度 見通し	増減	
			金額	率
売上高	33,736	34,100	364	1.1%
営業利益	923	1,020	97	10.6%
経常利益	926	1,020	94	10.1%
(経常利益率)	2.7%	3.0%	(＋0.3ポイント)	
当期純利益	503	520	17	3.3%
EPS(円/株)	6,408	6,622	214	3.3%

連結売上高・経常利益の推移



(現中期)競争力強化活動推進

Ⅲ. 競争力強化への取り組み

競争力強化への取り組み

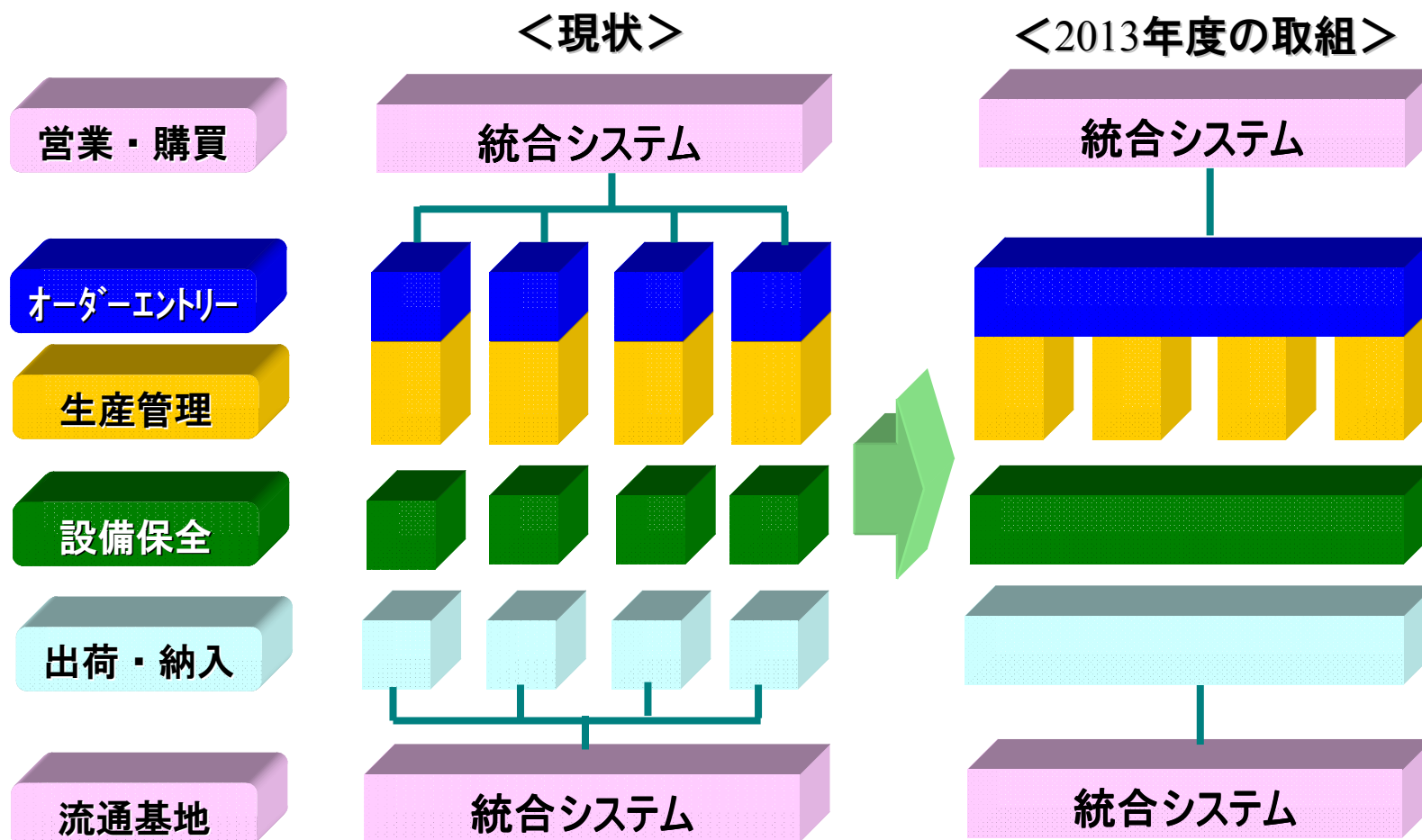


① 鉄鋼システム共通化によるリフレッシュ・プラン作成

狙い

- 個別製鉄所の枠組みを越えて、全社システムの共通化課題を研究
⇒ 製鉄所システムのリフレッシュ・プラン作成へ

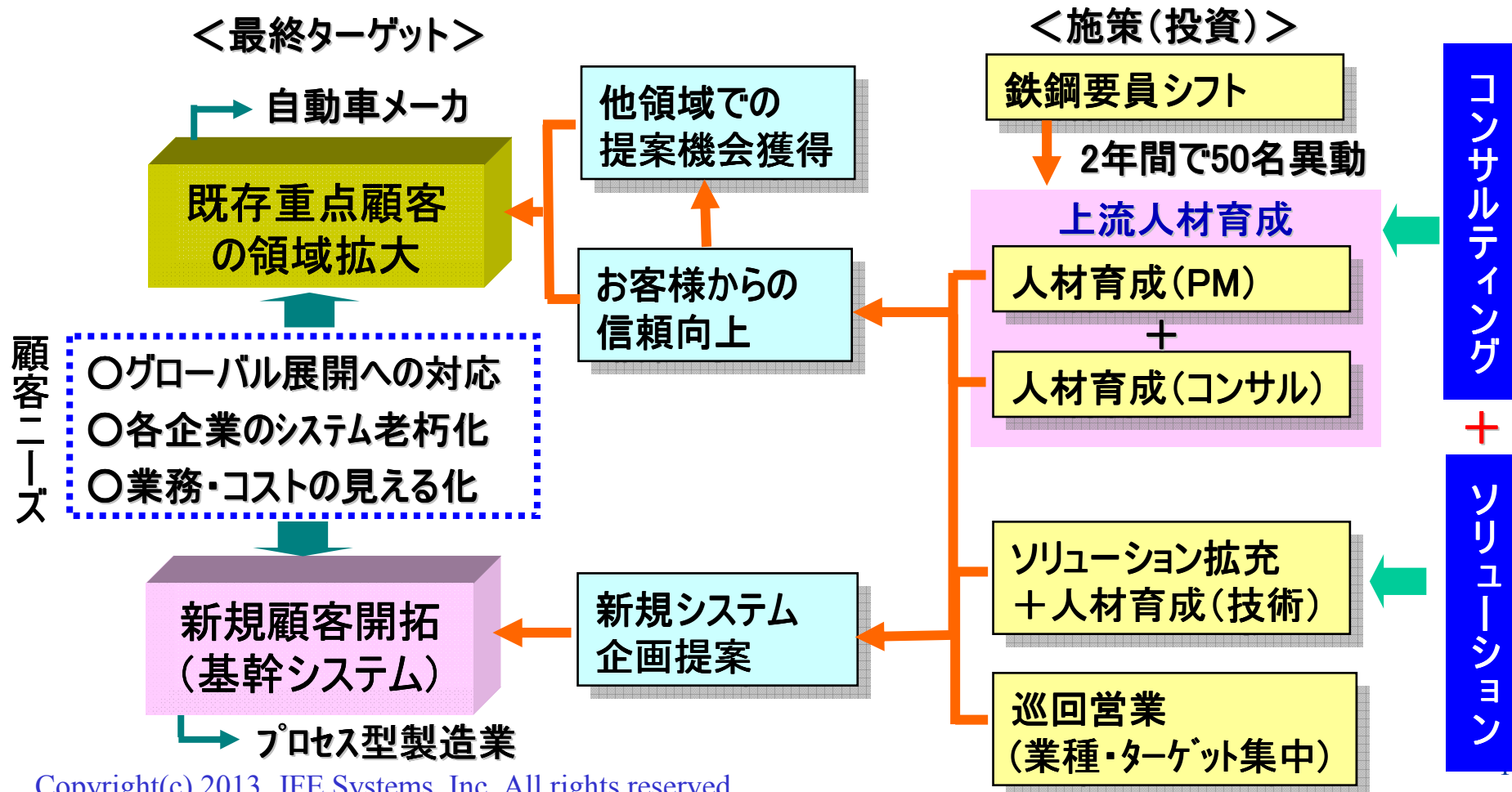
- ① システム共通化の理想形を描く ② 具体的なシステムテーマの企画提案／開発



②-1 製造流通ビジネス強化の方針



- 自動車業界を中心に、既存重点顧客における領域拡大をはかる
→製造業に精通したコンサル、PMを重点的に配置し、お客様からの信頼を高める
- グローバル展開を進める企業のニーズ対応したソリューション提案により新規顧客を開拓する
→ERPを核として、原価、調達、SCM等の自社開発ソリューションを組み合わせる展開



②-2 製造流通ビジネスの強化・拡大

◆ 重点顧客における領域拡大



【取組状況】

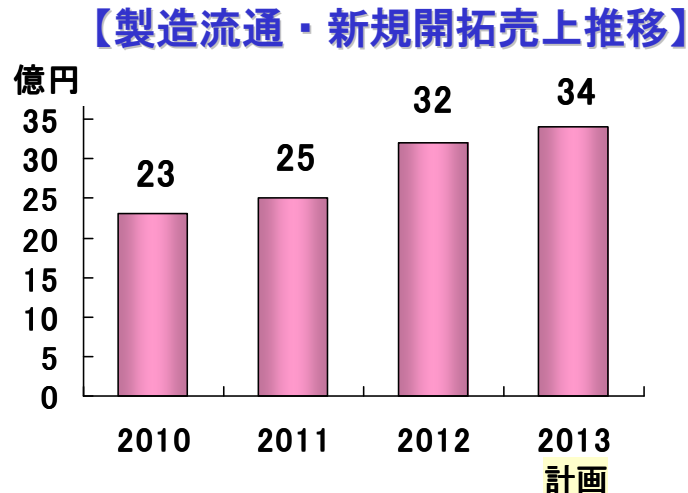
【今後】

- ・IT投資堅調
- ・鉄鋼システムとの親和性

■ 自動車顧客の担当領域で売上を拡大
高評価、信頼感をベースに新規領域に参入

・ 自動車顧客に一層重点を置いた戦略を強化

◆ 新規顧客開拓(複合ソリューション提案+巡回営業)



【取組状況】

【今後】

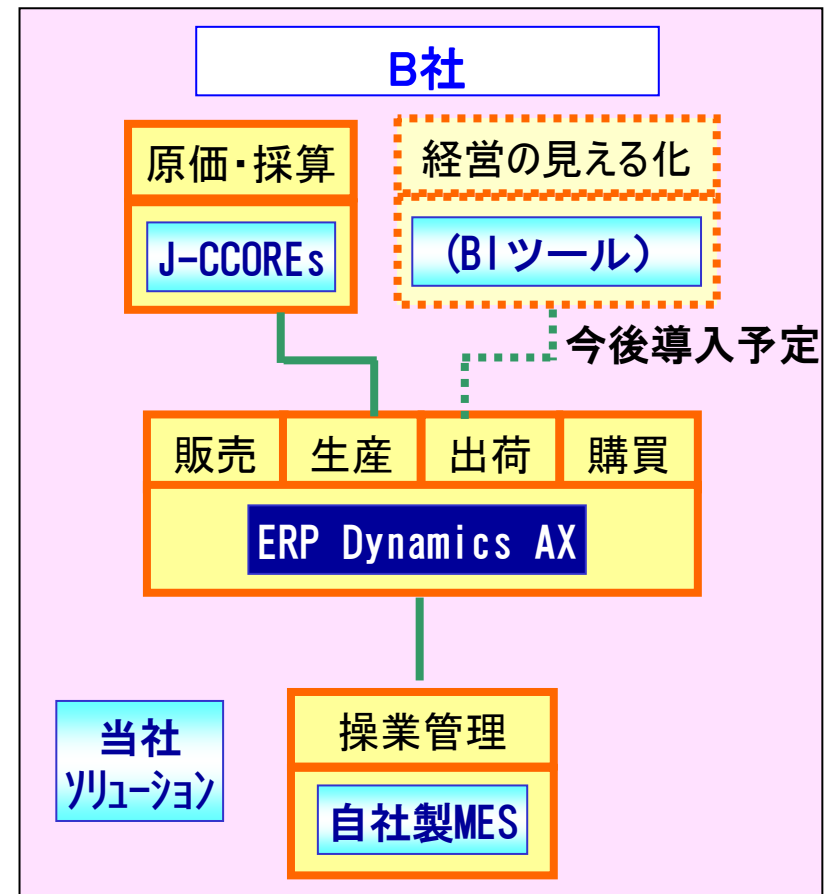
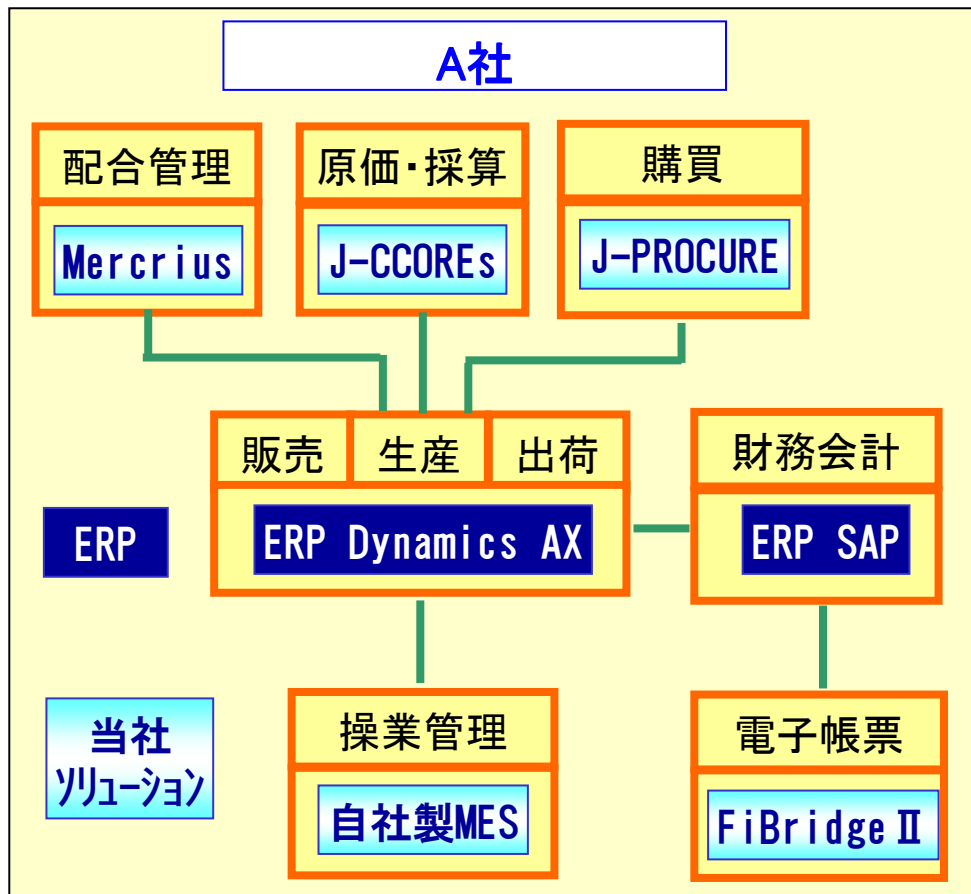
- ・グローバル展開に対応したIT投資コース
～調達、生産、採算管理

■ ERP/BIのビジネス基盤強化が進展
■ ERPと実績ある自社ソリューションの組み合わせで、
新規顧客への提案ラインアップを整備

・ 複合ソリューションの提案強化と巡回営業拡大

③ ERPを核とした複合ソリューション適用事例

- A社: 「コストの見える化」「IFRS対応」「グローバル展開対応」を狙いとしてリフレッシュを計画
→ 企画・提案フェーズから参入し、基幹システムを受注
- B社: 「経営管理レベルの向上」「社内情報共有」などを狙いとしてリフレッシュを計画
→ 原価・採算管理での商談をきっかけに参入し、基幹システムを受注



④ eドキュメントのトップシェア維持と新規展開

電子帳簿保存法対応の要件の明確化

→企業の電子帳簿データ活用ニーズが高まる

■帳簿データ保存ソリューション「DataDelivery」本格販売

【取組状況】
【今後】

- ・帳簿データ保存ソリューションの展開を拡大
- ・新たな適用分野拡大に向けた施策を実行

⑤ 食品ソリューションの強化・拡大

原料配合、表示に関する法規制へのきめ細かい対応ニーズが拡大

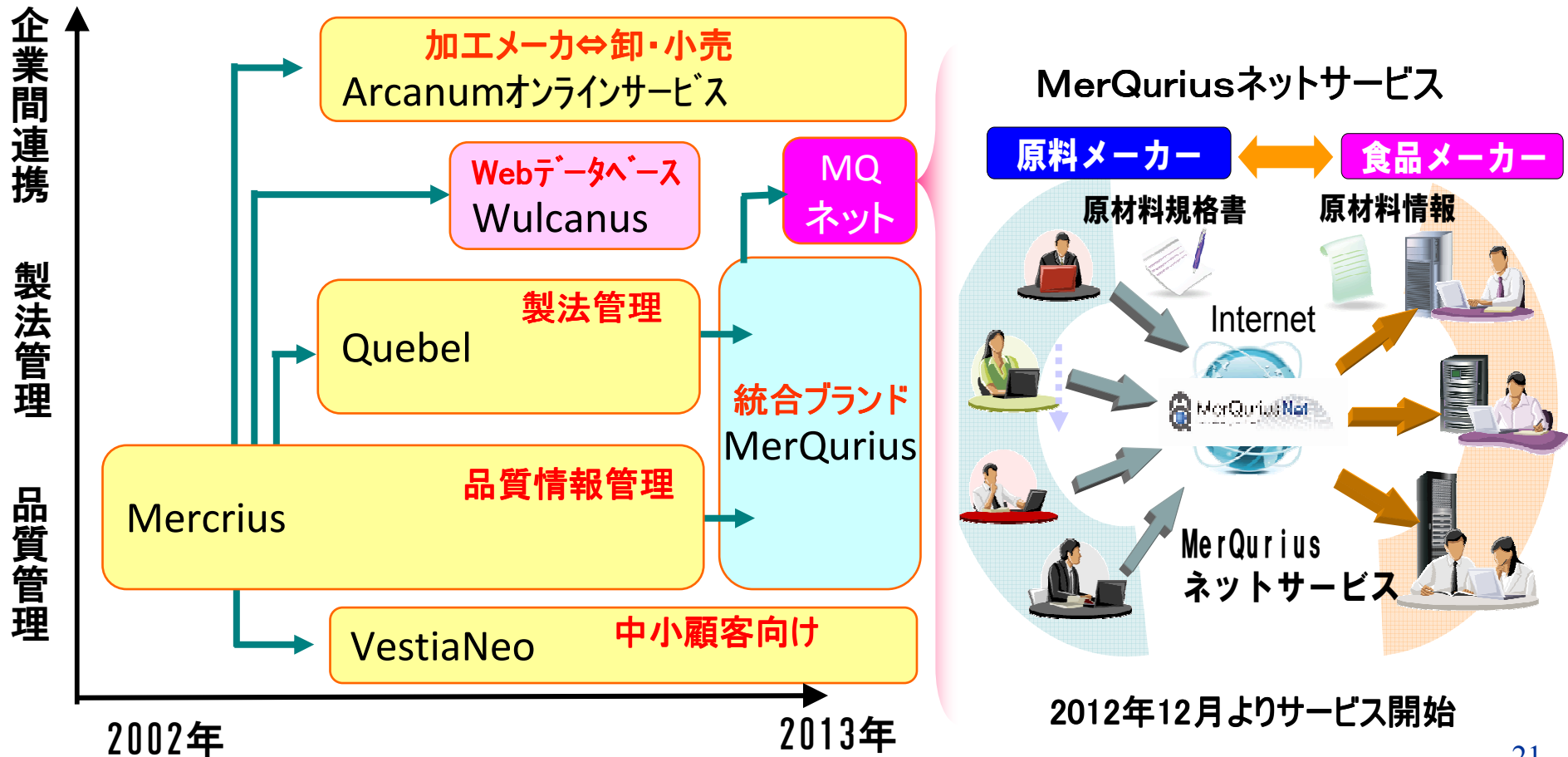
- 品質管理トータルソリューション（Mercurius／Quebel統合）の提案を推進
- フードチェーンにおけるMerQuriusネットサービスを立上げ

【取組状況】
【今後】

- ・食品業界のニーズに対応したソリューション提案
- ・MerQuriusブランドの浸透

⑤-1. 食品ソリューションの戦略的な拡充

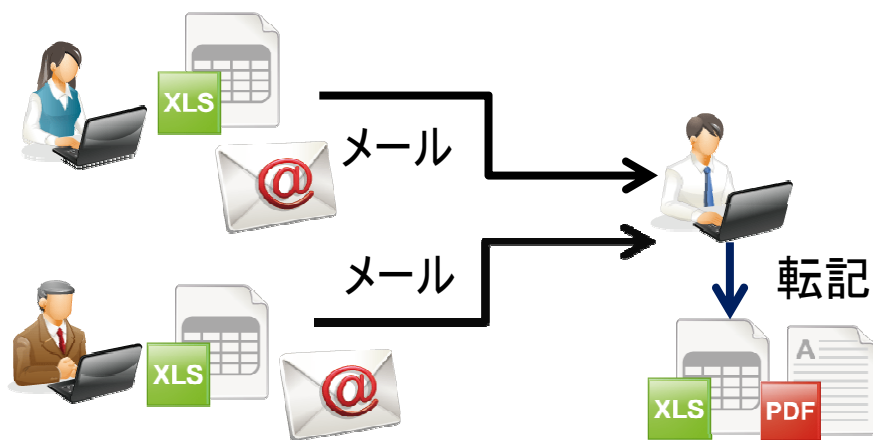
- 食品品質管理システム「Mercrius」からスタート
- 商品開発の製法管理システム「Quebel」を展開
- 「Mercrius」と「Quebel」を統合して「MerQurius」へ
- 「MerQuriusネットサービス」で企業間連携サービスを展開



⑥ Webデータベース「Wulcanus」の展開

- Mercrusiusを発展させ、2012年より販売を開始したWebデータベースシステム
- ノンプログラミングでデータベースとワークフローを構築
- 特定個人業務を脱却、Excelデータをデータベース化して全社活用が可能

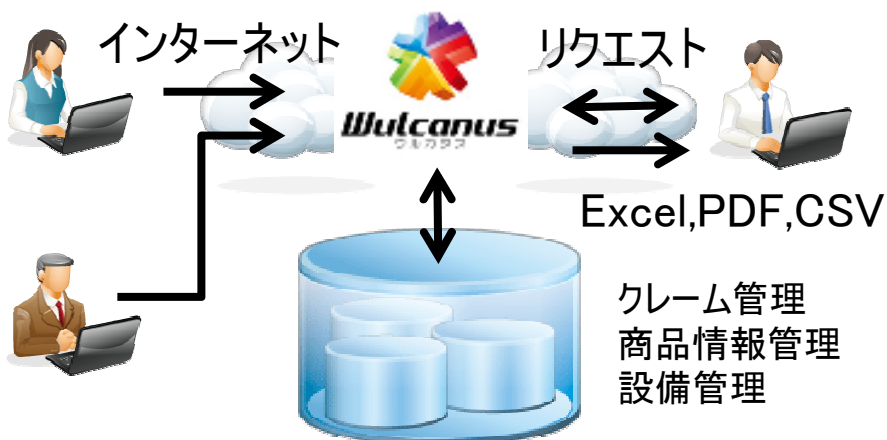
導入前



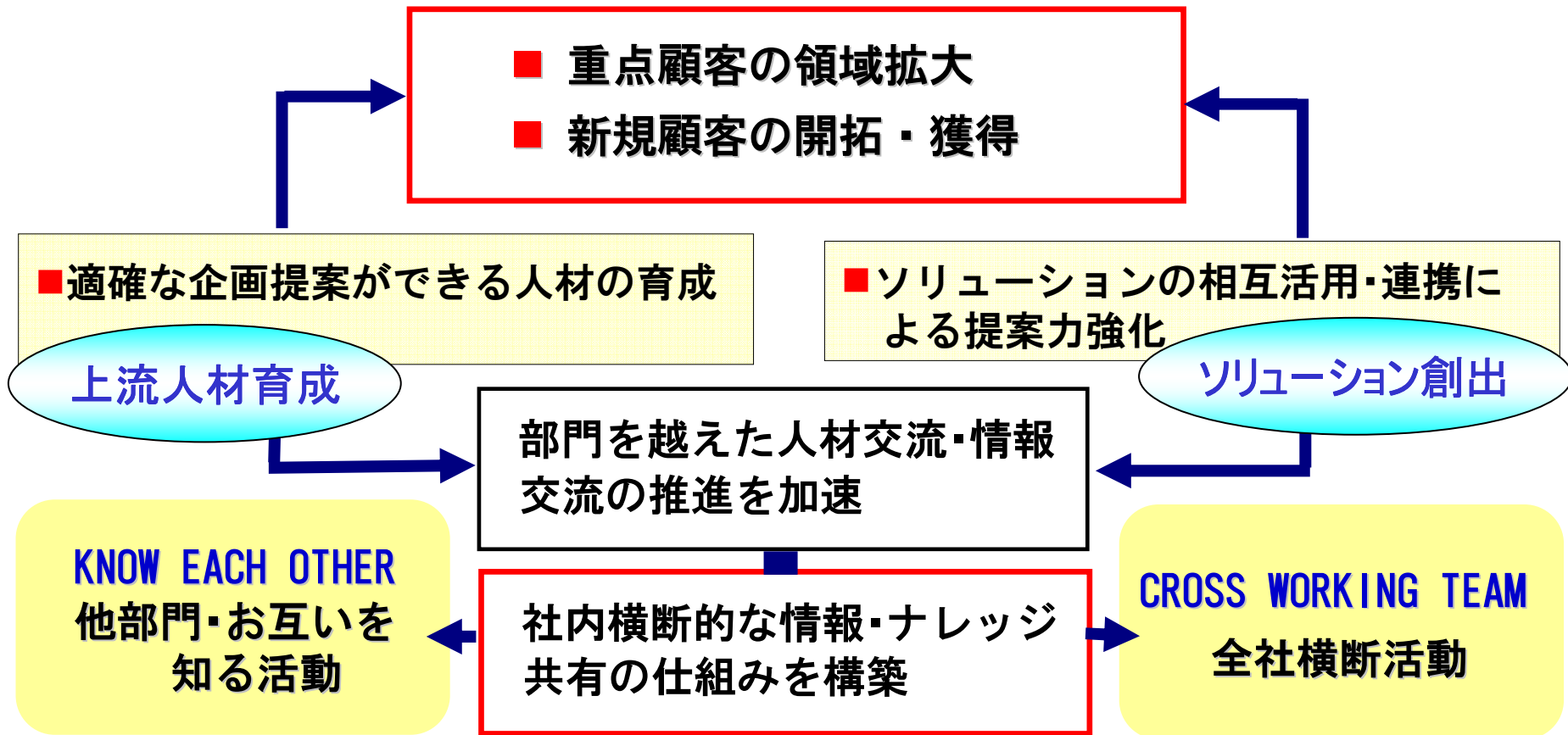
業務へのインパクト

- 業務進捗の可視化
- データ活用の容易化
帳票の自動作成
- データ全社活用

導入後



- ◎ 業務スピードアップ
- ◎ 業務の効率化
- ◎ セキュリティ向上



- ◇社内SNSの導入（10事業所にまたがる社員間の情報・ナレッジ共有）
- ◇スマートデバイスの全社導入（BYODを含むスマートフォンの全面利用）
- ◇ワークスタイル変革（WEB会議による拠点間コミュニケーション強化等）

KNOW EACH OTHER



JFE システムズの夢を語ろう

JFEシステムズ株式会社

ご清聴ありがとうございました。

(ご注意)

本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。